

街頭募金

去る 2022 年 3 月 20 日、2 年ぶりに街頭募金を行いました。例年より 10 日ほど遅い実施でしたが思いのほか寒く、街ゆく人は春の装いに襟をたて寒そうに行きかう人がほとんどでした。新型コロナウイルスの影響で大きな声掛けは控え、サイレントアピールとなりましたが、13,000 円も集まり、驚きとともに感謝の念に堪えません。大声を出さなくても、何に使われる募金なのかを明確に提示できれば、募金して下さる方は確実にいると実感できました。

震災後から続けてきた街頭募金ですが、2020 年 3 月、2021 年 3 月は開催を断念しました。2 年間は活動らしい活動ができませんでした。頂いた募金は、わいわいステイに使わせて頂くと銘打っているだけに、せっかくくださった気持ちのこもった浄財を使えない状況は心苦しい限りです。また、プログラムを待ってくださっているであろう方々に届けられず、寂しい 2 年間でした。2022 年度こそは、この募金を使わせて頂けるよう、願うばかりです。

街頭募金はただ募金を集めるという目的だけではないと思っています。その出来事や事象に気づいてもらう機会を提供するという大きな意味もあるはずです。普段は気づかない、また知っているも具体的に何が自分にできるのかわからないという方たちに、募金という手軽な形で貢献できる・・・そう気づくきっかけにできるのではないのでしょうか。東日本大震災は大阪から遠く離れた東北で起きたこと？いいえ、そうではありません。いつでもどこでも誰にでも起こりえることです。また、メディアでの露出は年々減ってきています。意識的に情報を取り寄せない限り、気づかないことはたくさんあります。誰もが自分ごととしてとらえ、自分にできることは何か、普段から意識して行動できるようにする機会を提供することも、街頭募金を続ける大切な目的の一つと考えています。

震災や災害に限らず、事故や事件など、日々様々な悲しいできごとが起こっています。被害にあわれた方たちにとっては過去のことではなく、永遠に終わることのないことです。先日ニュースで目にした被災者の方のことばが忘れられません。

区切りって言うけど、区切りなんてないんだよね。復興って言ったって、亡くなった人は戻ってこないんだよね。

街頭募金はじめ我々にできることは小さいことだと思います。わたしたちは忘れないと言っても、忘れたと思っている被災者の方々もいらっしゃいます。だからこそ、時間とともに変わっていくもの、変わらないものを常に考えながら、活動を続けていきたいと思っています。

文：山本安主子